

笑顔をつなぐ広報紙

2016

広報

ひとよし

3/31

No.1055

施政方針号

市民みんなが健康で笑顔で
暮らせるまちを目指して



1はじめに

昭和35年7月に発表され、現在も市庁舎で毎朝の朝礼前に流れている「人吉市民の歌」の一番の結びで「相和してともに目指すは 新しき朝よ門出よ」と歌われています。この歌詞のように、平成28年という新たな年を迎え、本市にとって、そして市民の皆さまにとって飛躍と安寧の年の門出となるよう、皆さまと同じ夢と希望を携え、誠心誠意、市政の舵取りにまい進していきます。議員各位を始め市民の皆さま方には、市政に対しご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。

昨年5月の市長就任以来、行政の継続性や発展性に留意しながらも、いくつかの事業、施策について新たな方向性を提示したところです。

新市庁舎建設については、厳しいご指摘、ご意見を頂きながら、市議会でも市庁舎建設に関する特別委員会を設置していただくなど、柔軟で発展的な議論をすることで、着手時期も含めてより計画性、実行性を高めているものと思ひます。

2組織別・総務部関連

総合計画後期基本計画を策定

本市の組織機構ですが、本年4月に総務部内の機構を改編する準備を進めています。内容としては、プランニングのセクションである企画部門と、今後さらに難しい舵取りが予測される財政部門を分離することで、重層で実効性のある政策の選択と実現に努め、また、選ばれる都市を目指すためにシティプロモーション推進室を新設することとされています。

市の組織機構全体については、平成29年度の改編に向けて、人口減少傾向が社会全体に大きな影を落としていく中



昭和37年に建築された現在の市庁舎

で、住民福祉や市民サービスを堅持し、安全、安心で、住みよい地域社会をいかに創出していくのかなど、現状と課題、地域の将来を見据えた組織機構の構築に取り組んでいきます。

第5次人吉市総合計画後期基本計画ですが、今後、平成31年度までの市政の指針となるべき計画について、人吉市総合計画策定審議会で、1月27日に答申を頂きました。答申の要旨は、「少子高齢化による人口減少の加速化や安全、安心に対する市民意識の高まり、さらには地方創生の動きなど、本市を取り巻く環境の変化をしっかりと踏まえた上で、市民目線での市政推進を強く望む」というものです。また、昨年10月に策定した「人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても後期基本計画との整合性を図りながら取り組みを加速させること、さらには後期基本計画に位置付けされた施策を着実に実践していくため、適切な進捗管理を行うよう要望もなされたところです。

本市では、今後、後期基本計画に基づき6つの政策体系で各施策を推進していきますが、市民の皆さま方との対話を深めながら、市民と行政とが一体となってまちづくりの理念の実現に向け、進めていくと考えています。

「人吉市人口ビジョン」と「人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」ですが、本市に仕事をつくり、安定した雇用を創出するため、人材育成の推進、起業・創業支援や、地域資源を活用した産業の充実強化、地理空間情報技術といった先進技術を生かした「しごと創り」などを、平成31年度まで展開します。

その一つとして、ことし3月には、産官学連携事業として、情報通信技術を活用したイベントの実施や、「G空間×ICTシンポジウムin人吉」を開催し、近未来技術を活用した新たな産業基盤創出への普及啓発を図りたいと思ひます。

また、本市への新しい人の流れをつくるために、人吉球磨の日本遺産を中心とした観



G空間×ICTシンポジウムin人吉



平成28年 第1回 人吉市議会定例会

施政方針

市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまちを目指して

2月29日から3月24日まで開催された平成28年3月市議会の冒頭で、松岡市長が述べた施政方針の主な内容をお知らせします。施政方針とは、市政運営に対する市長の基本的な考え方や主要な施策について述べたものです。

※広報ひとよし掲載用に表現を一部変更しています。

防災・減災に対応する
事前防災行動計画を策定

球磨川流域の治水関係ですが、球磨川治水対策協議会では、現在、事務レベルで治水安全度を高める対策として示された9つの対策案について、検討されています。ことし1月には、鹿児島県川内川流域の災害対応策で、引堤、輪中堤、ダム再開発などの進み具合について、現地視察が行われています。また2月2日には、国土交通省九州地方整備局、熊本県知事、球磨川流域の市町村長が一堂に会し「第一回球磨川治水対策協議会」が開催され、これまで検討された球磨川治水対策案について報告を受け、議論を行ったところです。

今後引き続き国、熊本県、流域市町村での議論を重ね、共通認識を深めながら、球磨川をはじめとする河川の治水安全度や地域防災力が高まるよう最大限の努力をしていきたいと思っています。

防災関係ですが、昨年6月に発足した球磨川水害タイムライン検討会で、現在、球磨川の治水に備えて関係する機関や地域、住民が一体となつて防災・減災対応ができる仕

組みとして、球磨川水害タイムラインと呼ばれる事前防災行動計画を策定しています。今後は、ことし3月までに

タイムライン試行版を策定し、平成28年度の出水期に実際に運用することさらに改良を加え、実行性の高い計画にしていく予定です。

多発する自然災害に備え防災対策を強化することは本市の重大な責務であり、先を見越して早期に災害に対応する球磨川水害タイムラインの運用には、大きな期待を寄せているところです。

利用しやすい公共交通を
目指して

公共交通政策ですが、人吉市予約型乗合タクシーは、これまで利用者の方々から寄せられたご意見をもとに、ことし1月中旬から前日予約方式を改め、朝の第一便を除き当日予約もできるように運用を変更しています。

しかし本市の公共交通網は、公共交通空白地の解消、利便性の向上や利用促進など、持続可能な地域公共交通網を形成するために抜本的な改革が必要です。そこで、人吉球磨地域の複数市町村に及



当日予約もできるようになった乗合タクシー



人吉鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868

ぶ路線については、人吉・球磨地域公共交通活性化協議会で人吉・球磨地域公共交通網形成計画を策定し、平成28年度から順次再編を進めることにしています。市内で完結する路線については、昨年12月に、交通事業者、利用者、学識経験者、行政などで組織する人吉市地域公共交通活性化協議会を設立し、公共交通に

関するさまざまな課題を一体的に協議する体制を整備し、平成28年度から本市の公共交通の指針となる人吉市地域公共交通網形成計画を策定する

ことにしています。

地域で若い世代が減少し高齢者が増加する将来を見据えたとき、公共交通の果たすべき役割はますます大きくなっていきます。今後、持続可能な地域公共交通網の形成を目指し、力を注いでいきます。

親子が集う楽しい鉄道
ミュージアム

鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868関係ですが、昨年5月の開館以来、来館者数は順調に推移し

3 組織別・
市民部関連

消費者被害のないまちを
目指して

消費生活相談関係ですが、近年、消費者トラブル、特に架空請求や還付金詐欺、オレオレ詐欺などの手口は、情報通信技術の飛躍的な進歩により複雑巧妙化していて、被害回復は難しく被害の未然防止が重要となっています。

本市も、相談員の専門能力の向上に努め、消費者の相談について、被害回復に向けた助言、指導など適切な対応を進めるとともに、消費者被害の未然防止についても情報の提供や注意喚起はもとより、ライフステージに応じた消費者教育や啓発を通して自立した消費者の育成にも取り組んでいきたいと思っています。

子どもたちが学ぶ自然と
環境

環境関係ですが、本市が目指す環境像を実現するためには、将来にわたって地域住民が自ら環境の保全などについ



市消費生活センターで市民からの相談を受ける相談員



保育園・幼稚園などで実施している「環境しつけ教室」



ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」から寄付が可能に

人吉を応援してもらう
仕組みづくりに挑戦

ふるさと納税ですが、平成27年4月からインターネットでの寄付金の受け付けと本市の地元特産品の特典を設け、新たな形で運用を開始してきて、昨年4月からことし1月までの10カ月間で888件、1360万4800円の寄付を頂いています。

ふるさと納税は、本市の歴史や文化、自然を活用したふるさとづくりや将来を担う子どもたちを育て活気に満ちた

まちづくりなどに共感し、応援していただける方々を増やしていくことが重要であると思っています。

人吉を離れ全国で活躍されている人、人吉を訪れてまちに親しみ好感を持たれた人、これから人吉を知っていたく方々に応援してもらえような、新たな仕組みづくりに挑戦していきたいと思っています。

4 組織別・健康福祉部関連

共助のまちづくりを推進

地域福祉関係ですが、現在、地域福祉の推進にご協力いただいている団体や個人で、自ら目標を設定し、それぞれの特性を生かした活動を進めていただいているところです。本市も、市民の方々の困りごとや不安に対する相談体制を充実するため、市内の地域福祉推進会議で情報共有と連携体制の強化に取り組んでいて、今後も住民視点に立った支援体制の構築に努めていきます。

また、町内会単位で作成してもらう避難行動要支援者支援合いマップは、ことし1月末現在、32町内会で作成されていて、それぞれの地域で災害時の支え合い体制が整備されているところです。本市としても、全ての町内会で支え合いマップが作成されるよう支援を継続するとともに、この取り組みを通じて、地域での声掛けなどの見守りネットワークがさらに充実し、住み慣れた地域で安全に安心して

暮らせるまちづくりを推進していきたいと思います。

障がいがある人の就労を促進

障がい福祉についてですが、障がいがある人の就労促進も重要な施策と位置付けていて、人吉球磨の障がい者関連団体などで構成する人吉球磨障がい者総合支援協議会で、商工関係団体との連携について検討が始まっているところです。

このような取り組みを通じて、障がいがある人の自立と自己実現を支援することで、障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現、全ての人が暮らしやすいまちづくりを推進していきたいと思います。

子ども・子育て支援策の充実に向けて

子ども・子育て支援ですが、平成27年度からの子ども・子育て支援新制度への移行に伴い、子育てに関する相談機能の充実を図るため、利用者支援事業を活用し、九日町商店街の九ちゃんクラブ施設内に



九ちゃんクラブの子ども・子育て支援員

子ども・子育て支援員を配置した相談窓口を設け、子育て中の保護者の方々が気軽に相談できる場としてご利用いただいているところです。

また、教育・保育の一体的な提供を推進するため、市内の保育園13園のうち5園が認定こども園に移行され、保護者の子育てニーズに対応した施設として新たにスタートしています。

児童虐待などの防止対策については、全国で発生している痛ましい児童虐待のニュースを聞くたびに、その対策の必要性を痛感しているところです。本市でも、各方面から通報、相談を受ける中で慎重に虐待の状況の把握に努め、必要に応じ児童相談所などの関係機関と連携し、速やかな

対応に努めています。児童虐待などの原因は、子育てに対する孤立感や負担感からくる育児ストレスから経済的負担感までさまざまな原因が含まれているため、複合的な対応が必要です。今後とも要保護児童対策とDV対策協議会を構成する関係機関との連携を強化し、児童虐待の早期発見、未然防止に努めていきたいと思っています。

子ども医療費助成については、中学校卒業までの子どもに対する医療費無料化について、子育て世代の多くの市民の皆さまが望まれている施策であると認識していますが、引き続き、少子化への対策と家庭や地域を取り巻く環境の変化に対応するさまざまな子ども・子育て支援策全体の中で、さらなる検討を重ねていきたいと思っています。

生活支援相談の充実

生活困窮者支援についてですが、生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援機関として、平成27年4月に「ひとよし生活困りごと支援センター」を開設していて、ことし1月末現在で127件の相談を受けています。これは全国

健康寿命を延ばし健やかな社会を

高齢者福祉についてですが、本市は、高齢化率が平成27年末には33%を超え、3人に1人が65歳以上の高齢者という人口構成となり、今後もさらに高齢化は進み、団塊の世代が75歳以上になる平成37年には37・4%に達すると推計されています。

そのため、要介護等認定者、認知症高齢者、高齢者のみの世帯などの増加が見込まれることから、介護予防や認知症高齢者対策と合わせ、高齢者を地域で支える体制、地域包括ケアシステムの構築も急務であると認識しています。

また、高齢者の方々が生き生きと人生でもう一度輝くことができるまちにするための施策も必要であり、今後、第5次人吉市総合計画後期基本計画に基づき、さまざまな施策を展開していきたいと思

います。高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりについては、その活動の受け皿となつて牽引していただいている老人クラブ連合会、シルバ



各地域で行われている介護予防教室



子どもを安心して産み育てられるよう展開する母子保健事業

の生きがいづくりを推進していきたいと思っています。

介護予防や重度化の抑制対策としては、現在実施している介護予防のデイサービス

を、高齢者にとって身近な場所であるコミュニティセンターや公民館などで実施し参加しやすい環境を整えるなど、高齢者のニーズに柔軟に対応することで、介護予防事業の効果的で効率的な実施に取り組んでいきたいと思っています。また、地域包括支援センターについては、認知症初期集

中支援チーム、医療、介護をはじめとした地域多職種の連携や地域の実情に応じた生活支援など地域包括ケアシステムの中核的な機関として、複合的に機能強化を図っていきます。

高齢者についての施策は、単に寿命を延ばすだけでなく、いかに健康寿命を延ばすか、また、歳を重ねてもクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を向上させるという超高齢社会の大きな命題に対し、いかに機能するかが重要であ

り、各種施策の展開と合わせ、引き続き、市民の皆さまとの対話を大切にしながら、みなで支え合う地域コミュニティの再生にも取り組んでいきたいと思っています。

でも取り組みが進んでいる熊本県の中でも高い相談件数となつていて、本市は民生委員をはじめ地域で市民の生活を支援する見守り体制が整つていて、その中で支援センターの相談機能も発揮できているのだと思います。

しかし相談内容を見ると、失業、多重債務、疾病、障がい、家族関係など多岐にわたり、また多くの方々は複合的な問題を抱えています。本市としても、この事業の受託者である人吉市社会福祉協議会との連携体制をさらに充実し、関係機関、地域の方々とネットワークの強化を図りながら、引き続き、就労やそのほかの問題に対し自立相談支援や住宅確保、家計支援、子どもの学習支援など、生活困窮者の早期自立に向け、きめ細やかな支援を進めていきます。

不妊治療に対する支援を開始

母子保健についてですが、全国的に少子高齢化が進む中、本市の合計特殊出生率は、平成26年度で2・02となつていて、国、熊本県と比べると高い数値で推移しています。本市は、子どもを安心して産み育てられるよう、妊娠から出産、育児まで切れ目のない母子保健事業を推進していますが、近年、不妊に悩み、実際に不妊治療を受けられるご夫婦も増加していて、身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担が大きいことも課題となっています。

そこで本市では、平成28年度から熊本県特定不妊治療費助成事業の対象者に対して、県からの助成額に上乘せする形で、人吉市特定不妊治療費助成事業を開始することになっています。本市の助成事業を十分に活用していただくことで、不妊に悩むご夫婦に対し治療を開始し、さらに継続しやすい環境が整い、子どもを授かり、育てる喜びを感じていただけるご夫婦が一組でも多く誕生することを心から願うところです。



有害鳥獣の農地への進入を防ぐ電気柵



スマート林業で木の育成から消費までの近代化を目指す



市有林で行ったスマート林業の実証実験



人吉の森と林業の未来をつくるイベント「林業応援ハッカソン」

**安定した生産活動のため
農地・農道・水路を保全**

農業施設関係ですが、現在、多面的機能支払交付金事業を実施し、地域の農地、農道や水路の保全活動を推進しているところですが、

農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化や担い手の減少に伴い、農地などの多面的機能の維持・発揮が困難になりつつあります。平成28年度も引き続き、保全隊などの組織強化を図り、農業用施設の長寿命化のための補修・更新などを支援し、安定的な農

新たな林業振興に向けた取り組み

林業関係ですが、本市の森林面積は市の面積の約75%を占める状況であり、長引く木材価格の低迷や間伐などの未実施、放置林などにより、適正な管理に欠ける森林の増加が心配される状況です。

森林の荒廃は、あらゆる面で市民生活に影響を及ぼす可能性があります。作業道開設や間伐などを実施

内容としては、攻めの農林水産業への転換の体質強化対策を目的に、意欲ある農業者の経営発展を促進する機械・施設の導入に対する支援として、担い手確保・経営強化支援事業や、国際競争力のある産地イノベーションの促進支援策として、基金化による複数年での取り組みができる、産地パワーアップ事業など多くの事業が含まれています。

本市は、この内容を農家の方々へ周知し、必要な対策として要望があった事業について熊本県へ要望を提出しているところです。また、平成28年度農林水産予算の概要についても説明を受けていて、今後、国の動向を注視しながら必要な対策について適切に対応していきたいと思っています。

大を推し進め、農作物の保護に努めていきます。

地理空間情報と近未来技術を組み合わせ、本地域の豊富な森林資源を活用し、新たな林業の姿を確立するスマート林業事業については、昨年11月に国からの地方創生先行型交付金上乘せタイプIに採択され、事業を進めているところです。

スマート林業の目指す方向は、育林や伐採、製材・加工、そして消費に至る、いわゆる川上から川下までの林業を中心とする森林資源を使った地域産業活動で、体系的に近代

化と効率化を図り、ひいては、新規林業従事者の確保・育成や、新しい産業の創出を図ろうとするものです。

現在、林業の分析はもとより、関連する地域産業の現状分析を始め国内外の先進的事例調査、担い手育成プログラムの構築、ビジネスモデルの検討、関連技術の普及啓発などを一体的に実施していて、平成28年度からは、これらの事業成果を活用し、より具体的な取り組みを実践することになっています。



市民健診で自分の健康状態を把握

5 組織別・経済部関連

国の施策に応じた農業の支援を推進

農業振興関係ですが、国が昨年11月に示した総合的なTPP関連政策大綱に基づく主要施策を含む平成27年度補正予算がことし1月に成立し、1月28日に国から概要について説明を受けたところです。

地産他商関係ですが、平成24年に設立された人吉ブランド化実行委員会では、本市の農産物や物産品、観光などの多様な地域資源を紹介、アピールすること、人吉ブランドの確立に努め、併せて知名度アップによる地域振興と産業の発展に貢献することを目的として、これまで東京都、大阪府、広島県、福岡市、北九州市といった都市圏でPRイベントを実施してきました。

川辺川総合土地改良事業ですが、九州農政局、熊本県、関係6市町村で組織する行政連絡会議で、かんがい排水事業は廃止、農地造成事業と区画整理事業については事業計画を変更し水手当を行うという方向性を確認し、現在、事業収束に向けて協議を重ねています。また、事業費の負担についても、農家負担の軽減は重要な課題と認識している、これまで関係6市町村長



農地が広がる上原田地区

特定健診の費用負担を軽減

健康づくりについてですが、健康づくりの基本は、自らの健康は自らで守ることであり、その第一歩は、市民の皆さまに自らの健康状態をしっかり把握していただくことだと思っています。そのためには市民健診を受けていただき、疾病の予防や早期発見、早期治療に努めることで、日々元気に楽しく過ごすことができるものと思います。

本市では、平成27年度から、毎年続けて健診を受診していただき健康増進に努め、併せて受診率向上につながる取り組みとして、継続して特定健診を受診された方に健診受診奨励商品券の交付を始めてい

ます。また、平成28年度から特定健診の個人負担金を課税世帯の1600円を非課税世帯などと同額の800円に減額し、健診の費用負担の軽減を図ること、より多くの方々が受診しやすい環境を整えたところです。

今後も市民の皆さまの健康づくりとして、町内嘱託員や健康推進員の方々、関係団体にご協力いただきながら、受診しやすい健診環境の整備と受診率向上の取り組みをさらに進め、将来の医療や介護の負担が大きくならないよう市民一人一人が自らの問題として健康意識を高め、健やかに暮らせるまちづくりを推進していきたいと思っています。

設立から4年経過することもあり、平成27年度の活動の一つの区切りとして取り組んできましたが、これまでの活動を通して、本市の認知度も広がり、新商品の開発のきっかけとなった事業所や、少量ですが継続的な取り引きができた事業所もあり、本市の農産物や物産品などの知名度アップに一定の効果があつたものと思っています。

今後の活動については、人吉ブランド化実行委員会、これまでの取り組みの検証を行い、次の方向性も含めて検討していきたいと思っています。

上原田地区の水源確保のために国・県と協議

川辺川総合土地改良事業ですが、九州農政局、熊本県、関係6市町村で組織する行政連絡会議で、かんがい排水事業は廃止、農地造成事業と区画整理事業については事業計画を変更し水手当を行うという方向性を確認し、現在、事業収束に向けて協議を重ねています。また、事業費の負担についても、農家負担の軽減は重要な課題と認識している、これまで関係6市町村長

で熊本県に対し本事業に対する支援を強く要望したところですが、

今後は、行政連絡会議でさらに事業収束に向け協議を進め合意を図ることとし、その後、関係6市町村議会や農家の皆さま方へ報告、説明を行い、事業廃止、計画変更などの法手続きを進めていく予定です。

また、本事業の関連事業として、新たな水源を上原田地区で確保するために、県営事業として揚水ポンプ設置とファームポンドまでの送水管の整備を計画しているところです。今後も引き続き、国、熊本県と協議を重ね、水を守つ農家へ一日も早く水を届けられるよう最善を尽くしていきたいと思っています。

起業・創業・中小企業の支援に向けて

商工関係ですが、創業支援として、本市に仕事をつくり安定した雇用を創出し、地域産業の強化を図るため、仮称「起業創業・中小企業支援センター」の設立による創業の促進を掲げているところです。

これまで先進地などの優れた取り組みをもとに実施に向け検討を重ねてきましたが、支援アドバイザーの重要性、創業支援と中小企業支援は両輪で実施してこそ効果的であること、また、創業・中小企業支援は、まちづくりであるとの視点が大切だという認識を得たところです。そのため、まずは多くの方々に新たな起業創業・中小企業支援についてご理解いただくため、今後、地域で活躍されている産業支援アドバイザーを招いてのセミナーの開催を計画しています。

地方創生の第一義的な目的は、地方での仕事の創出であり、人が、企業が元気になるればまちも元気になるとの考えのもと、本市に適した創業支援、中小企業支援体制の実現を目指していきます。

中核工業用地の整備の状況について

人吉中核工業用地整備事業については、昨年2月に着手した調整池改築工事、さらに本体部分の造成工事を順次完了し、平成28年度は、国道交差点改良工事と法面保護工事を計画しているところです。

株式会社カミチクの人吉中核工業用地への進出については、国の交付金の活用を含め、国、熊本県、近隣市町村といった関係機関との合意形成などにはばくらの時間を必要とするため、当初、株式会社カミチクとの間で合意を交わした最速で平成28年4月以降工場建設着工、平成29年4月操業開始というタイムスケジュールは、現状では未確定な部分が多い状況です。

従って、現時点で着工の時期を明確に示すことはできませんが、資金調達の方法やその後の許認可などの用途が立った後の着工ということを考えると、誠に遺憾ですが、当初の見込みから数年は遅れるものと認識しています。

本市も、今後ロードマップの見直しが必要となりますが、引き続きハラル対応セントラルキッチン形成を図る

楽しんでいただくことで、地域活性化にもつながる活気あふれる祭りを目指していきたいと思っています。

6 組織別・建設部関連

曙橋の大規模修繕に向け準備

土木関係ですが、現在、一般道路については、新設改良は継続して行うものの、昨今の社会情勢から考え、交通安全、施設の長寿命化を重視し、路面整備などの維持補修を、橋梁については、大規模修繕・更新による老朽化対策、予防保全的な修繕補強に努めることとしています。

平成28年度は、社会資本整備総合交付金事業を積極的に活用し、市道下林南願成寺線など舗装工事、改良工事を、球磨川に架かる曙橋は、引き続き国の大規模修繕・更新補助制度を活用し、耐震補強詳細調査と耐震補強設計を進めていきます。



補修工事が完了した水ノ手橋



改修工事を予定している蟹作団地

引き続き市営住宅・公園施設の改修を実施

市営住宅関係ですが、本市が管理する25団地のうち、16団地について、平成23年度に策定した「人吉市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、給水設備改修や外壁改修などの改善事業を実施しているところです。

平成28年度は、国の社会資本整備総合交付金を活用し、蟹作団地1・3号棟外壁等改修工事や米山団地浄化槽改修工事などを計画して、引き続き快適で安全な居住環境の維持に努めていきます。

都市計画関係ですが、街路事業は、平成24年度に都市計画道路、下林願成寺線の事業認可を受け、人吉インターチ

るために、「地域資源を活かした人吉ハラル促進区を実現するための地域再生計画」の実現に向けて、関係機関との連携を図りながら、人吉中核工業用地への関連企業の集積を強力に推し進めていくと思います。

官民が連携して展開する観光振興策

観光振興関係ですが、地域資源を生かしたハラル促進区をはじめとするインバウン



整備が進む人吉中核工業用地



ムスリム（イスラム教徒）をおもてなしするためのセミナー

ド事業は、これまでモニターツアーやおもてなしセミナーなどの事業を実施して、本市でのニューツーリズムの展開について市内のホテル・旅館業や飲食業の方々と情報共有に努めているところです。今後は、ハラル対応のサービス体系の検討や施設設備などの受け入れ態勢の整備と、人吉ならではのおもてなしの確立に向け、引き続き、情報提供や環境整備に努めていきたいと思っています。

「日本でもっとも豊かな隠れ里」と評される相良文化ストリーや人吉鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868、肥薩線、くま川鉄道の田園シンフォニーなどの観光資源の魅力について、ラジオなどの放送媒体で積極的に情報発信を行って、歴史的遺産や伝統文化と新たな資源を活用した、戦略的な観光振興策と交流促進を進めていくところです。

人吉温泉観光協会では、平成27年度から観光客誘致特別

進めていきたいと思っています。

人吉にふさわしい景観計画・景観条例を

景観計画策定事業については、現在、本市の歴史や文化的景観資源について調査・研究を実施しているところです。平成28年度は、ワークショップなどを実施し市民の皆さまのご意見を反映した景観資源調査をさらに進め、11月には景観計画策定のための協議会と審議会を設置し、景観計画の素案作りに着手することとしています。

策定期間が平成29年度に及ぶ事業となりますが、市民の皆さまのご意見を幅広く取り入れ、先人から受け継いできた美しい景観を守りながら、地域の個性や特色を生かした人吉にふさわしい景観計画・景観条例の策定に向け、努力していききたいと思います。

スマートインターチェンジ
整備を着実に推進

スマートインターチェンジ整備事業ですが、平成26年8月、国土交通大臣から連結許可を受けた後、同年9月に西日本高速道路株式会社、熊本県、本市で基本協定を締結し、関係機関と協議を進め、詳細設計、地質調査、用地測量などの業務を実施しました。

また、建設用地については、地権者の方々のご協力により、用地境界立会や用地幅杭設置が完了しましたので、1月30日に用地についての説明会を開催しています。今後は、工事の早期着工を目指し、用地取得に努めていきたいと思っています。

7 組織別・
教育部関連

第2次教育振興基本計画
策定に着手

教育振興基本計画ですが、計画期間が平成28年度末で終了することから、平成28年度に第2次人吉市教育振興基本計画の策定を予定しています。次期計画では、第1次計

画の検証を踏まえながら、第5次人吉市総合計画後期基本計画のまちづくりの理念の下、本市教育の基本理念や目標を明確にし、その実現に向け総合的、体系的に施策を推進する計画の策定に努めていきます。

学校給食関係ですが、学校給食費への公的支援は、社会情勢の変化に伴い子どもを取り巻く環境も大きく変動する中、第5次人吉市総合計画後期基本計画での子ども・子育て支援の充実、また、人口減少対策として人口ビジョンや人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも明記している若者が地域に残って、安心して子供を産み育てていける若い世代の経済的安定確保のための支援など、子ども・子育てに役立つ施策として位置付けています。

これまで学校給食費の段階的な保護者負担の軽減に向けて、関係部署と協議を重ね、具体的な支援策の制度設計について検討してきましたが、平成28年度から、給食費のうち、児童、生徒1人当たり月額千円の一部補助を実施していきたいと思っています。給食費への公的支援は、本市が引き続き活力あるまちと

して発展を遂げるためには、次世代を担う子どもたちの育成が重要な課題であると認識をしていて、その対応策として実施したいと思っています。また、給食費の完全無料化は、本市の財政状況を検討しながら、今後、段階的に進めていきたいと思っています。

盛況だった春風マラソン

社会教育関係ですが、2月21日に開催した「第13回ひとよし春風マラソン」は、全国



2千人以上のランナーが走ったひとよし春風マラソン・ハーフの部

各地から6237人の選手の皆さまにエントリーしていただきました。当日は天候にも恵まれ、選手それぞれの目標にに応じた走りを楽しんでいたが、恒例となっている沿道での小旗の応援やつぼん汁の振る舞いなど、市民の皆さまの心のこもったおもてなしにも十分満足いただけたものと思います。

で本市出身の永山忠幸氏と一緒に、特別ゲストとして大会に花を添えていただきました。福土選手には、会場内で参加者の方々と交流や表彰式のお手伝いと運営にご協力いただきましたが、福土選手の行く先々には人だかりができるほどで、市民の方々の温かい声援と歓迎は大変なものでした。その様子を見てみると、福土選手と人吉市をつないだこの大会には、走る人ともてなす人の心が触れ合い、気持



ひとよし春風マラソンで表彰式のプレゼンターを務めた福土選手

8 組織別・
水道局関連

これからの水道事業の
ビジョンを策定

上水道関係ですが、今後の水道事業の基本的な考えや具体的方策を示す「人吉市水道事業ビジョン」の策定を進めています。

今回のビジョンは、平成21年度に策定した現行のビジョンを、国、熊本県と同様に、安全、強靱、持続という3つの観点から見直し、これからの50年間を見据えながら今後10年間の取り組みの指針とな

る計画です。昭和32年10月から給水開始している本市の「おいしい水」を、これからも引き続き、市民の皆さまに安定的にお届けできるように、供給体制の構築に努めていきます。

下水道施設の更新を継続

公共下水道事業関係ですが、昭和57年3月の供用開始以来、事業認可区域1021haの整備がほぼ完了し、普及率も平成26年度末現在で73.6%となり、雨水や生活排水などの汚水処理し市民の皆さまの健康で快適な生活を支える重要な都市施設として機能しているところです。

しかしながら、昭和49年の事業着手から40年以上経過している、施設の老朽化も見られることから、今後その機能を継続的に維持するため、汚水中継ポンプ場や污水管きよなどについて、計画的に改築工事などを進めていて、平成28年度は、前年度に着手した九日町汚水中継ポンプ場の改築更新工事を引き続き実施します。

今後下水道事業と浄化槽設置事業の両面から、公共用水域の水質保全と住環境の改善に努めていきます。

平成29年度の県民体育祭
は人吉球磨地域で開催

「家族と走る、家族が応援する」をテーマに4年連続で6千人を超える参加者をお迎えできたことは、ひとえに多くのボランティアの皆さまをはじめご声援をいただいた市民の皆さま方、関係団体、企業の方々の温かいご支援の賜物です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

平成29年度に人吉球磨地域で開催される第72回熊本県民体育祭については、現在、本体育祭を主管する（仮称）第72回熊本県民体育祭人吉球磨大会実行委員会の設立に向け、準備が進められています。本市は、市内高等学校や中

学校の体育館をはじめ8つの体育施設が競技会場として予定されていて、人吉市スポーツ推進基本計画に基づき、競技団体の皆さまと協議を重ねながら、競技種目が安全で円滑に運営できるよう体育施設の整備に着手していきたいと思っています。

日本遺産の魅力を発信

日本遺産関係については、昨年4月24日に文化庁から認定を受けましたが、その後、10市町村の行政と民間でつくる人吉球磨日本遺産活用協議会を設立し、日本遺産魅力発信推進事業を活用し、情報発信などの各種事業に取り組んできました。日本遺産認定についての取り組みは、観光や商工業に携わる方々や人吉球磨市町村が活用の方角性を確認し、一体的に事業を推進すること、地域経済、地域振興、まちづくり、さらには教育へとさまざまな効果が期待できるものと思っています。

今後引き続き、人吉球磨日本遺産活用協議会で、その活用について議論いただき事業を展開していきたいと思っています。



パンフレットなどを作成し日本遺産をPR



人吉のおいしい水をこれからも

新しい季節へ、漕ぎ出そう。



広報ひとよし平成28年3月施政方針号

発行・編集 人吉市役所総務課秘書広報係

〒868-8601 熊本県人吉市麓町16番地

<http://www.city.hitoyoshi.lg.jp/>

✉ info@city.hitoyoshi.lg.jp

☎ (0966) 22-2111 FAX (0966) 24-7869

表紙：3月1日に行われた「川開き祭」

人吉球磨の観光シーズンの幕開けを告げる球磨川下りの川開き祭。招待客らを乗せた飾り舟が、温泉町までのミドルコースを運航しました。



人吉市公式facebook

「日本のふるさと ひとよし」

で人吉の魅力を発信中！